

令和2年度 順天寮事業報告

生活保護受給者で居宅生活をおくることが困難な人が、安心して暮らしながら自立に向けた訓練を行う施設である順天寮では、令和2年度に、主に以下の取り組みを行いました。

- (1) 定員60人に対し年間平均入所者数は65.5人と前年度と同様に施設を最大限に生かして需要に対応し、入所措置収入は2億3,780万円を確保しました。利用者の人権尊重を第一とし、質の高いサービス提供に努めました。
- (2) 通所・訪問事業の年間平均利用者数は、前年度の4.4人から6.7人に伸び、地域移行事業の収入は前年度の930万円から1,160万円に拡大できました。
- (3) 生活困窮者への就労訓練事業と、触法者の自立支援である「自立準備ホーム」を実施し、84万円の事業収入となりました。
- (4) 新型コロナウイルス感染症対策として、手指消毒・マスク着用、行事の工夫、入館管理等の徹底を図るとともに、隔離ゾーンを想定したトイレ・エアコン等の設置工事や、職員への慰労金給付などを実施しました。約1,000万円の事業費支出と、281万円の補助金収入がありました。

以上、コロナ禍にあって、70人弱の要支援者の暮らしを支えるとともに、3人の方の自立に向けた道筋をつけるなど、救護施設の責務を果たすことができました。

経営的には、1,000万円の施設整備等積立金の積み立てを行ったうえで、570万円の当期資金収支差額を計上することができました。

引き続き、組織・施設の機能強化を図りながら、安定した経営と地域福祉の向上に努めてまいります。

令和2年度 指定共同生活援助事業所事業報告

グループホーム事業は、既存の「南天」に加え、令和2年12月に新棟の「ハレルヤ」を開所し、2棟8名定員体制となりました。

定員4名の11月まではほぼ満室、定員8名となってからは7名入居となっており、年間平均利用率は87%で順調に運営できています。

収入は、新棟の開所時期が予定より2か月間遅れた関係で、当初予算を下回ったものの、前年度より36%増の873万円となりました。支出は、新棟開設及び新型コロナウイルス対策等があったため、前年度より66%増の912万円余であり、資金収差額は39万円のマイナスでしたが、予算の範囲内に収まっています。

新棟開設に当たっては、集合アパートの一部借上げ・改築、設置基準に適合するための消防設備整備、備品購入などで、初期費用156万円を要しました。

新型コロナウイルス感染症対策では、物品購入などで48万円を支出し、うち46万円が補助金で補填されています。

平成29年度の開設に当たり順天寮会計から繰り入れた300万円に対しては、平成30年度から3か年間50万円ずつ繰り戻し、残額は150万円となりました。また、当期末支払資金残高は390万円余となっています。